

令和３年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会議事録

1 日時

令和４年３月１日（火）午後２時００分～午後３時３０分

2 場所

議会棟２階 特別会議室

3 出席者

委員名簿参照

（明石委員、石井委員、鈴木委員、畠山委員はオンライン出席、伊藤委員、吹谷委員、福田委員は欠席）

4 配付資料

資料１：令和３年度歯科保健対策施策報告書（案）

資料２：感染症拡大下におけるフッ化物洗口の実施状況について

資料３：健口づくり連携推進事業について

資料４：オーラルフレイル予防啓発事業について

参考資料１：みんなの健口づくりリーフレット（案）

参考資料２：秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例（改正後全文）

5 内容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席者紹介

(4) 報告

①令和3年度歯科保健対策施策の実施状況について

②感染症拡大下におけるフッ化物洗口の実施状況について

③健口づくり連携推進事業について

(5) 議題

①オーラルフレイル予防啓発事業について

②その他

(健口づくり推進課 武藤課長挨拶)

本日は、年度末の大変お忙しい中、秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会にご出席をいただき、大変ありがとうございます。皆様には日頃から歯科保健施策を始め、健康づくりの推進施策全般においてご協力をいただいておりますことに、重ねて御礼を申し上げます。歯と口腔の健康を保つことは、健康で生き生きとした生活を送る基盤であり、健康寿命の延伸を目指す上で欠かせないものであります。このため、本県では、平成26年3月に策定されました、秋田県歯と口腔の健康づくりに関する基本計画に基づきまして、各ライフステージに応じた歯科保健施策を進めてまいりました。具体的には、秋田県歯科医師会、また、市町村等と連携したフッ化物洗口や妊婦歯科健康診査のほか、多職種連携の推進、企業や介護施設に出向いての訪問歯科保健指導などを実施してきたところでございます。こうした努力の結果、中高年の指標には、まだまだ課題の多いものの、10年前には、全国最下位クラスでありました、12歳児のむし歯の本数が、全国平均を下回り、乳幼児の1人平均むし歯本数や、むし歯有病者率も減少するなど、県民の歯と口腔の健康状態は、着

実に向上しているものと考えてございます。本日の会議では、基本計画の具体的指標につきまして、これまでの推移や現状値をご説明申し上げ、来年度実施予定の各種施策、とりわけオーラルフレイル予防啓発事業等につきまして、コロナ禍において、いかに実施していくかなど、施策の方向性についてご議論をいただく予定にしております。委員の皆様からのご意見や、ご要望等をお聞かせいただきまして、今後の歯科保健施策に反映させることで、県民の歯科口腔保健をより一層推進してまいりたいというふうに考えてございますので、忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

【議事の進行は藤原委員】

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料1～3について報告)

(歯科医師会 藤原委員)

ここまでで、質問や意見をいただきたい。

(医師会 五十嵐委員)

コロナでできなかった事業もあるが、できることをこれからも少しずつやっていくということだと思う。子どものう蝕について、かつて全国平均と比べかなり悪かったところ、現在は大きく改善傾向にあり素晴らしいと思う。引き続き、全国平均を超えたところで終わらずに、トップレベルを目指して活動を推進してもらいたい。

(学校保健連合会 佐々木委員)

8020いい歯の表彰についてだが、一昨年度までは対象となる80歳以上の高齢者は、毎年複数回受賞していた。そこで今年度は昨年度の分科会での議論を経て、80歳、81歳と年齢を限定して実施した。しかし、実際に今年度行ってみると、これまで表彰を受けていない方(82歳)で、表彰しようと思ったら、年齢が対象から漏れていて申し込みできなかった。本来であれば80歳で表彰に申し込みを出せばよかったが、事情があって申し込

めなかったようだ。令和4年度については、過去に表彰を受けてない方であれば、80歳を過ぎても表彰できるように、対象年齢を変えていただければありがたい。

（歯科衛生士会 甫仮委員）

様々なライフステージにおける歯科保健の推進が行われ、成果も出きているように感じられる。歯科衛生士会で関わっている健口づくり連携推進事業の中に出てくるOHAT、口腔ケアのアセスメントだが、地域ケア会議に出席すると、ケアマネ等も口腔の重要性に気付いてくれているほか、口腔を見るツールがあるという話もでてきており、徐々に口腔を見る目や重要性が伝わってきているように感じる。

（栄養士会 明石委員）

やはりこのコロナの中で、いろいろな集まり、特に高齢者の集まりに参加というのが厳しい状況の部分もあったが、今年、サロンの方では、口腔に関して色々な研修会をすることができよかったと思う。ただその中で強く感じたのは、後期高齢者への指導というのがなかなか入りにくいということだ。今回県の方で、40～50歳代を対象にアンケートを取られたということだが、他の事業も今回のようにもうちょっと若い時代に、フレイル予防に関して啓蒙活動をやっていただければありがたい。

（牛島ルンビニ園 石井委員）

令和2年度と令和3年度はともにコロナ禍にありながら、令和3年度の方が比較的色々な事業について、感染予防をしながらしっかり行っていると感じた。オーラルフレイルの啓発活動についてだが、やはりまだまだ周囲の方でも、オーラルフレイルという言葉自体が耳に入ってこなく、言葉を聞いてもどういったものか理解されている方が、まだまだ少ないと思う。この啓発活動を進めて、もっと県全体の様々な年齢の人たちに知ってもらう活動を継続して行っていければ良いと思う。

（社会福祉協議会 鈴木委員）

説明の中で、オーラルフレイルの実態調査で、40 歳から 59 歳対象にした方に調査が行われたということで、私もその年代で非常に関心がある。調査結果ではオーラルフレイルに繋がる色々な所見が認められたということで、こういった情報を広く広報などに周知していただければ、なお良いのではないかと思います。

(歯科医師会 畠山委員)

残念なのが、健口づくり連携推進事業が今年度で終わりということで、できれば何らかの形で、例えばオンラインでも良いので再開を検討してほしい。全県レベルでこれだけの職種の方が集まる機会はなかなかないと思う。オーラルフレイルに関しては、現在色々な形で啓発はしているが、舌圧の観点で啓発を強化していきたいと考えている。

(歯科医師会 藤原委員)

課長からも話があったが、私はフッ化物洗口事業の立ち上げの頃から携わっているが、今の良い状態を 10 年前は考えられなかった。県の努力に非常に感謝している。今後はこれに加えて、オーラルフレイル予防も全年齢にわたって、健康寿命を伸ばすために考えていかなければならない。今回コロナ禍で、十分にできなかった事業もあるが、オンラインで色々できたことは非常に良かったと思う。日本歯科医師会で、オーラルフレイルということを行っているが、具体的な事業は不十分だと感じている。その点、条例の改正から始まった秋田県の方が進んでいるように感じる。非常に良いと思う。また、企業健診も日本歯科医師会はやつと言いはじめた。企業健診というと労働安全衛生法に基づいてということではなかなか進まない。ところが、オーラルフレイルが入って、進んでいくきっかけができたのではないかと感じている。この辺りもまた県で議論いただいてで、トップを走っていけるようにやっていただければと思っている。

では、議題（1）について事務局からお願いします。

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料 4 及び参考資料 1 について説明)

(歯科医師会 藤原委員)

今説明があったが、今回の調査から、働き盛り世代でオーラルフレイルが既に始まっているということが危惧され、若い世代への介入が必要だということがわかった。そこで、オーラルフレイルを働き盛り世代に、どうやって気づいてもらうか、意見を願います。

（栄養士会 明石委員）

オーラルフレイルに関して、若い年代の方に話を進めていきたいというのは、すごく素晴らしい案だなと思う。秋田県のフッ化物洗口も、最初は実施率が低かったが、子供たちと一緒に広がっていったというのもあったので、この年代はお子さんと同じ機会に啓発した方が入っていきやすいんじゃないかと思う。企業というのも、私の職場でいうと、交代制のある勤務の人たちが、なかなか夜間歯ブラシをしていないというのを聞いたので、不規則な勤務のところにも、こういう感じの啓発で入っていったらいいんじゃないかなと思った。

（医師会 五十嵐委員）

舌圧と誤嚥性肺炎の関係があるのであれば、やはり舌圧をしっかり良い状態に保つというのが必要だと思う。これは、鍛えることができるというふうに考えてよろしいのか。

（健康づくり推進課 田所技師）

はい。鍛えるためのトレーニング用具もある。

（医師会 五十嵐委員）

そうすると、この鍛え方についても啓発活動に含める必要がある。どうやって鍛えればいいのかや、今現在の舌圧を歯科に行かなくてもある程度自身で認識できるような目安があるといいと思う。ちょっと考えたのは、例えば、口の中で舌だけで豆腐を潰せますかとか、バナナを潰せますかとか、

イチゴを潰せますか、というように段階的にやわらかいものから固いものまで順に上げていく。それを示せば、歯科に行かなくても普段の日常生活で自身の舌圧がどれぐらいか、弱いのか強いのかっていうのもわかると思う。そういう啓発を含めることで市民に舌圧について理解してもらえるのではないかなと思う。

(歯科医師会 藤原委員)

素晴らしい発想であると思う。我々はどうしても、どうやって舌圧をあげようか、どうやって筋トレをしようかというふうに考えていたが、五十嵐委員が発言されたように、普段の生活の中で、どれくらいのものを食べられているかということを示せば、それは日頃の食事のときも試すことできるわけだから、それらをまとめて広報するようにすればいいのかなと思った。

(牛島ルンビニ園 石井委員)

オーラルフレイルの事業について先ほど明石委員も発言されたとおり、40代から50代だと、やはり小中学校や高校など、子育て世代の方が多いと思う。お子さんを通じて、参考資料1のようなフッ化物洗口の啓発資料を通して、お子さんと保護者の方が一緒に歯医者さんに行ってみようかというような会話をするきっかけづくりをすることはオーラルフレイルの予防啓発の事業に繋がっていくので良いと思う。今、新型コロナであまり皆さん出歩かないと思うが、落ち着いてきた際に、ショッピングモールとか、イベントがあった際に、このようなオーラルフレイル予防事業についてや歯のことについてイベントの一部として啓発するなど、色々な年代の方が参加される場での啓発も良いと思う。

(学校保健連合会 佐々木委員)

オーラルフレイルの予防啓発だが、オーラルフレイルはフレイル健診と同じで、病気を検診するのと違って、病気になる一步手前の状態の健診のため、一般の方々の関心が低いのは仕方がないかなと思う。これをどのようにして啓発していくかとなると、先ほど皆様がおっしゃったように、企業で実験的に行っていくっていうのも一つだと思うし、これは時間のかかることだと思うので、毎年継続してもらって、少ない人数ではあるかと思うが、毎年ちゃんとしていくことが良いと思う。また、イベントなどとタイアップしてという話もあったが、秋田はスポーツの大会やイベントが多いと思うので、サッカーやバスケットなどの試合やイベントの一角に、オーラルフレイル予防の啓発コーナーを設けて、少しずつ地道に啓発していくのが良いと思う。

(社会福祉協議会 鈴木委員)

今回資料を見て初めて、高齢者だけではなく、40代や50代という年代も取り組まなければならないことを知った。一般の方々にはやはりそこまで十分に伝わっていないと思うので、例えば県の広報だとか紙媒体も含め、県政関係のマスコミを活用したり、広報周知をしながら、若いうちからの予防啓発の必要性を感じた。

（歯科医師会 畠山委員）

今回この年代の舌圧を調べたことは、非常に有効なことだったと思う。というのは、この年代で、30kPa以下であったのが何十人かいたというのは、私としてはちょっと予想外な結果だったと思っている。健康で常食の方はほとんど30kPa以上は確保していると思っていたが、60代までで30kPa以下の方が2割ほどいたという結果には驚いた。この30kPa以下の方の、オーラルディアドコキネシスとの関連、または舌苔との関係、そして口腔状態の問診項目の食事の種類など、関連項目を調査していただければ良いと思う。ただ舌圧が低くなると、食事形態も変わるであろうし、歯の本数との関係もあるかと思う。一方で舌圧が基準値以上である方で歯がなくても飲み込める方もいる。ただ、それは窒息に繋がってしまうこともあるだろうし、その辺の問診項目とオーラルフレイルなり舌苔の関連性について調査していただければ良いと思う。

（歯科医師会 藤原委員）

舌圧に注目したことは非常に良いと思う。今、県内でフレイル健診が行われている。その健診の中で、握力が落ちると舌圧も落ちるという報告がある。特に女性の場合には、80歳を過ぎると握力と舌圧が落ちるといような報告がある。80歳で既にそうなのだから、その前から予防を強化しなければならない。要するに、舌圧だけではなくて、筋力をアップするためにはどういうことをやるかということ。口に限らず全身的にどう予防しなければいけないかということも、広報していく必要がある。もう一つ、舌骨っていうのは浮いていて、筋肉と筋肉でくっついている。だからそれを固定するには何の筋肉があって、それを引っ張るには何の筋肉があってと、ちょっと複雑なもので、ただ舌を出してというときにも、少し意識してやれば良いんだということも加味して説明する必要も感じた。

（歯科衛生士会 甫仮委員）

確かにこの年代は働き盛りで、子育て世代でもあり、わざわざ自分のために出かけるというのは難しい。こういった企業とか、健診の中に取り入れるというのは非常に良い案だと思った。あと、子どもの低舌圧や口腔機能の低下もあり、親子で口の機能の大切さを学ぶ機会としてPTAなどの研修会もある。そういった機会を利用して、啓発をするというのも非常に良いと思う。

(歯科医師会 藤原委員)

今、非常に貴重なポイントが甫仮委員から示された。口腔機能発達不全を言われた乳幼児や学童が小児歯科学会などで問題なってる。親子で口の中の状態に関してどういうふうな機能低下が起きているのかということを、一緒に広報できるようなものをこれから積極的に考えていかなければならない。

他に何か気が付いたことがあれば、委員の方、積極的にいただければありがたいと思うがいかがか。他にないようであれば、進行を事務局にお返しする。

(健康づくり推進課 長谷川班長)

藤原会長ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、お忙しい中ご出席いただきまして、また、貴重なご意見等いただきまして、大変ありがとうございました。最後になりますけど、健康づくり推進課の武藤より皆様に、申し上げたいと思います。

(健康づくり推進課 武藤課長)

本日は、大変貴重なご意見ありがとうございました。

佐々木委員からお話いただきました8020いい歯の表彰に関してです。子どもは表彰を、良い口腔状態を保っていただくきっかけにさせていただきたいと考えております。そういった貴重な機会ですので、できるだけ多くの方に受賞いただきたいという気持ちは当然持っております。ただ一方で、これから団体の世代の方々が、80代になってきて対象者が非常に増えるということが想定されます。もしくは「8020」でいいのかですとか、その辺はもう少し考える必要もありますので、先生方ともご相談させていただきながら考えてまいりたいと思っております。

また、畠山委員からお話いただきました健口づくり連携推進事業、これは私も多職種連携、いわゆる顔の見える関係づくりを各地域で作り上げるということで、非常に良い事業だと考えております。ただ残念ながらコロナ禍で、今もこのような状況ですので、なかなかリモートでその関係づくりがうまくいかないのではないかとということで、残念ながら、一旦休止というように考えております。機会がきたら、ぜひ再開というように考えおりますので、その際にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

さらに、オーラルフレイルの予防啓発事業につきましては様々ヒントをいただきました。今回、冒頭の挨拶でも申し上げましたが、その意見を基にして、これから様々事業を取り組んで参りたいと思っております。その際には、本日の委員の皆様をはじめ、各機関の方々からのご協力いただくことになろうかと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。本日は大変どうもありがとうございました。

(健康づくり推進課 長谷川班長)

これをもちまして、令和3年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会を閉会いたします。ありがとうございました。